演奏に役立つ ONE POINT LESSON

HORN

ホルン

最初が肝心!!
正しいアンブシュアが上達のカギ

和田博史 わだ・ひろふみ

【出身】東京芸術大学
【所属】東京都交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ東京、ゼフィルス・クインテット・トウキョウ
【趣味】映画、読書
【血液型】不明
【星座】いて座
【読者にひとこと】部活の友は一生の友です。大切にしましょうね。
【手紙の送り先】BJ気付または
wadahiro103@livedoor.com
http://yaplog.jp/h-w/

スポーツをするときに様々なフォームがあるように、ホルンにもいろんな約束事があります。最初に変な癖(くせ)をつけてしまうと上達の道は途絶えてしまい、数年後に直そうとしてもかなりの無理をすることになります。何事も最初が肝心です。月に1回という私の誌上レッスンですが、実は4月に始めた方でも既に2カ月が経過しています。この間「何も吹いてない」、「構えるだけ」という人はいないでしょうから、先輩の指導や、バンドジャーナルのバックナンバーを読んで練習していることでしょう。基本奏法が間違ってしまっている人、また数年やっているけれどなかなか良い音が出ないという人、まだ遅くはありません。これから書くことを読んでもう一度チェックしてください。

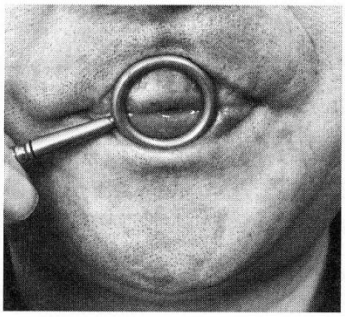
■アパチュアって? アンブシュアって?

ホルンの振動する部分、それは唇の中心であることに気が付いたでしょうか? 息が通り抜ける小さな唇の穴をアパチュアと呼びます。この部分は自分では思い通りに動かせません。それを効率よくコントロールする口周りの筋肉、歯の動かし方などをアンブシュアと言います。では私なりに、初心者が理想的なアンブシュアを作るまでの過程を説明してみたいと思います。

■アンブシュアの基本

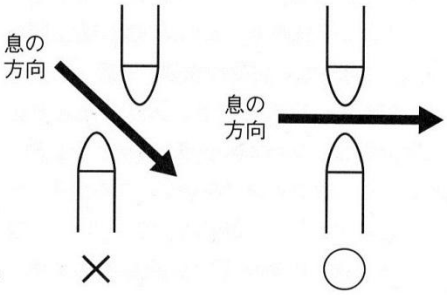
まずはマウスピースだけを持ってください。持ち方はマウスパイプに差し込む部分(シャンク)を親指・人差し指・中指の3つの指で持ちます。次に鏡を見ながらアイウエオの「ウ」を発音する口の形を作ってみてください。そのまま空いている口の穴を閉じます。そこにマウスピースのリムを当てます。上唇に3分の2、下唇に3分の1の割合でリムを当てましょう。**[写真]**

[写真]



犬歯を覆っている辺りの肉を、強く歯の方向に押し当てるようにします。両端はグッと固定されなければなりません。そして顎(あご)の下唇の下あたりがピーンと張っていなければなりません。これらは全音域でそうです。ここまでできたら歯の位置をチェック。大多数の日本人は下の歯が奥に引っ込んでいるので、少し顎を前に出し、上の歯の先と下の歯の先が向かい合い、その隙間が2ミリくらいの位置にします **[図参照]**。

[図]



最後にのどを開いてみましょう。自分で出せる一番低い声を出している状態と同じです。あくびをしている状態とも言えます。男性でしたらノドボトケが一番下まで下がった状態。実はこれは全ての管楽器に言えるようで、テレビでオーケストラの演奏会をやっていたら管楽器奏者を見てください。吹き出す瞬間首から下がガバッと広がるのが分かるでしょう。

以上が全音域に共通するアンブシュアの注意点です。ブレス(息を取るとき)のたびに口からマウスピースを外さず、当てたまま口の両端から取る練習もしましょう。最初はマウスピースだけで童謡のメロディを吹けるようになることが目標です。

■音域別の違いを知ろう

続いて音域別に説明します。言葉で言えば、「低音」→「中音」→「高音」にいくにつれ、「オー」→「ウー」→「イー」と発音する感じです。3つの言葉が変わるときに、舌の動きや口内部の容積がどう変化するのかよく注意してみてください。では楽器にマウスピースを付けてみましょう。

〈中音域〉

一番出しやすい音域です。ここでしっかりよい音が出ている感覚を覚えましょう。たっぷり息を吸い遠くに音を飛ばす気持ちで吹きましょう。

〈低音域〉

顎を下げ、歯の間隔を少し広げます。そうすると両唇が離れていこうとするので、そのぶん唇の両端を真ん中に集め、唇先端を前に突き出すような感じで吹いてみてください。顎は梅干みたいにシワクチャにせず、しっかり張ってください。口内部の容積は広くなります。息のスピードも音域によって変わります。低音での息のスピードは遅く、寒い日に手を温めるような「ホー」という感じです。

〈高音域〉

顎を上げ、歯の間隔を狭くし、口笛で高い音を出しているときのように舌は上顎にくっつきそうなぐらいに上げます。「ヒー」という感じです。しかし「ヒー」では喉が閉じてしまいます。変わらず開いてなければなりません。これを体得するのがかなり難しいと思います。息のスピードはローソクを吹き消せるくらいの鋭く速い息です。圧力の高い息を一気に狭い穴に注ぎ込むのですから、腹筋の使い方も重要になります。これについてはまた別の機会に触れましょう。

そろそろコンクールの季節ですね。ホルンを始めて数か月で大曲に挑戦している人も多いでしょう。なかなかうまく吹けないかもしれませんが、音楽の楽しさ、本番の緊張感、大ホールの臨場感を楽しめるよい機会でもあります。失敗を恐れず頑張ってくださいね。